

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/8/26作成 (株)新出光

【概況】<米国景気後退懸念~OPECプラス減産の対応?>

●19日、週央に発表された米エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計では、原油・ガソリン在庫がともに大幅な取り崩しとなりました。ロシア産原油への依存から脱却を模索している欧州から米国産原油の需要が高まっていることもあって、今後のエネルギー需要が拡大するとの期待感が高まり、買い地合いが続き相場は90.77ドルへ続伸しました。

●22日、積極的な米利上げ継続による景気後退懸念に加え、中国南西部を中心とした熱波対策の計画停電で、世界的にエネルギー需要が鈍化するとの見方が投資家心理を圧迫し一時86.6ドルの安値を付けましたが、石油輸出国機構(OPEC)の盟主、サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相が減産を示唆したとの報道が伝わると、流れは反転し買い戻しが活発化し最終相場は90.23ドルで4営業日ぶりに反落しました。

●23日、サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相は22日、米ブルームバーグ通信とのインタビューで直近の原油価格の下落などの課題に対応するため、OPECプラスが減産を含むさまざまな手段を講じる用意があると述べました。有力産油国が市場安定化に向け減産に動けば、需給バランスが悪化するとの不安が再燃。このため早朝から原油買いが先行し、相場は93.74ドルへ続伸しました。

●24日、イラン外務省の報道官は24日、欧州連合(EU)がまとめた核合意再建案をめぐる、米国側の返答を精査中との事で、ただ米国側はイランへの一段の譲歩に慎重との見方があり、交渉の進展への不透明感から買いが先行し相場は94.89ドルへ続伸しました。

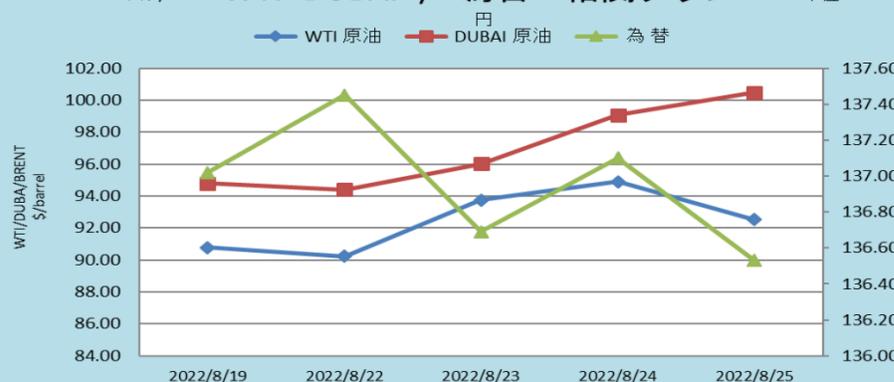
●25日、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)がインフレ抑制を優先し、積極的な利上げを継続する方針が改めて示されれば、急速な金利上昇が景気の減速を招いてエネルギー需要も影響を受けかねないとの懸念が浮上。また、需給の緩みに対する警戒感で売りが優勢となり相場は92.52ドルへ3営業日ぶりに反落しました。

8月26日 17:00現在 WTI原油 93.61ドル 為替 1ドル 137.76円

国内石油製品在庫 8月20日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



	次回元売変動予測	
	9/1~	元売変動予測
ガソリン	➡	+3.8
灯油	➡	+3.8
軽油	➡	+3.8
A重油	➡	+3.8
L S A	➡	+3.8

※原油コスト「+8.5円」 サウジ調整金含む
 ※激変緩和補助金「-37.1円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<ガソリン、灯油は玉不足、9月1週目は、大幅値上げ見込みのため月内は仮需発生か>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「-2.0円」、補助金は、「-32.4円」、都合「-0.6円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの22日時点の小売価格平均は169.0円となっております。今週は、元売り週間玉を持つ業者が競争力を増しています。ガソリンについては、枠を消化した業者が多くなりスポット市場に出回る玉が極端に少なくなっており日増しに市況は、上昇しています。

《8月27日以降》次回の元売り改定は、原油コストはサウジ調整金+2.4円を含み、「+8.5円」の値上げ改定予測で、激変緩和補助金は「-37.1円」の見込みで、都合「+3.8円」の値上げ改定の予測となっています。サウジ石油相のOPEC減産発言により原油は、高騰しています。国内では、FCC(流動接触分解装置)が不調となっている製油所が多く稼働率が低い状態になっています。FCCが不調になると重質留分を低分子のガソリンや中間留分に分解する工程に影響が出るため白物に影響が出てきます。輸入玉も思ったほどスポット市場には流通せずガソリンは特に締まってきています。灯油もジェット燃料輸出と冬場に向けての灯油ため込みの影響で余剰玉は、出にくく玉は締まってきています。1日からはサウジ調整金を含んだところで3.8円くらいの値上げ観測が出ているため月末に向け仮需が発生しローリー繰りも混雑するものと思われます。

【次世代エネルギー】<革新的なアンモニア合成技術を有する東工大発ベンチャー企業へ出資>

出光興産株式会社は、東京工業大学発のベンチャー企業であり、アンモニア製造時に用いられる新規触媒の開発や低温・低圧でアンモニアを生産できる技術の実用化を目指すつばめBHB株式会社へ出資し、業務協定を締結しました。

当社は、今回の出資によって革新的なアンモニア合成技術を有するつばめBHBとの連携を強化し、カーボンニュートラル社会の実現への貢献を目指します。アンモニアは燃焼時にCO2を排出しないため、CO2排出量削減に寄与することが出来る次世代燃料として期待されるとともに、水素を輸送・貯蔵するためのエネルギーキャリアとしても注目されています。しかし、現在の製造方法は高温・高圧下で水素と窒素を反応させるため、製造に多大なエネルギーが必要となり、製造時の環境負荷低減が課題の一つです。

東京工業大学の細野秀雄名誉教授のグループにより世界で初めて実現した、電子がマイナスイオンとして振舞うエレクトライド(電子化物)を用いたアンモニア合成触媒。これにより、従来の鉄触媒と比較してより低温・低圧条件下で高効率のアンモニアを合成できることから新たな触媒として注目されています。

つばめBHBによる次世代触媒・技術開発は、アンモニア製造時の環境負荷低減・アンモニア合成時のエネルギーの高効率化への寄与が期待される取り組みです。当社はこのたびの出資と業務協定によりつばめBHBとの連携を強化し、クリーンエネルギーの普及とアンモニアサプライチェーン構築に向け一層前進し貢献して行きたいとの事です。

[出典]

① <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000367.000023740.html>